

ふるさと わがまち わが地域

ふなき 弥栄町 船木地区



集会所: 京丹後市弥栄町船木1488番地
電話: 0772-65-2048

地区概要

国道482号を北上し、弥栄町黒部にある京都府丹後農業研究所を東に入り、1kmほど先に、船木区があります。黄金山を水源とする奈具川の上流に形成する、小さな集落です。世帯数は33戸、人口109人(平成25年12月末)。

「ふなき」のいわれ

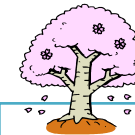
比治山(峰山町五箇)の羽衣伝説によると、羽衣を隠され天へ帰ることができなくなった天女は、年寄り夫婦の子どもになり十年余りも暮らしていたが、ある日突然に「わが子ではない」と家を追い出された。泣く泣く船木に来て住みつくことになり、婦(天女)が哭(な)いた所だから「ふなき」と呼ぶようになった。奈具神社の祭神は、この天女だといわれています。



安源山禅勝寺と船木集会所

本尊 阿弥陀如来 曹洞宗 弘化三年(1846年)本堂再建。
居小屋敷については、現在集会所として利用しています。

正面から見た船木集会所



地区の課題

先人達が大正時代に実施した区画整理の成果により、農業は早くから機械化が始まり、村も発展しました。

反面、キノコや紅葉等恵みをいただいていた山々から、松が消え、杉や檜が造林され殺風景となってしまいました。山々の荒廃は鳥獣被害をもたらし、人口構造においても少子高齢化が重なり、助け合い、人の和がくらしの第1となりました。桜や広葉樹を広げ、花や紅葉をみんなで楽しむ、美しい里山を育てる村づくりを、大きな課題としています。



市道から集落を望む



奈具神社

祭神 豊宇賀能売命(とよのかのめのみこと)
創立不詳だが、享保四年九月(1719年)、寛政五年三月(1793年)記録の再建棟札があります。



通り堂

この場所は、村の入り口にあたり、通り堂を通らなければ村に入れなかったという。また通り堂が一の門、村にある大門が二の門、禅勝寺山門が三の門との伝承もあり、通り堂が門としての役割も担っていたといわれています。(現在門はない)



通り堂の前を通過して奈具神社に向かう



氏子宅前で舞う踊り子



奈具神社に舞を奉納する踊り子

船木の踊り子

船木の踊り子は、氏神・奈具神社の祭礼(10月)に奉納されます。大太鼓、カンコ、ササラの各4人と鬼1人で構成され、傘鉾1基がつきます。鬼以外は少年で女人禁制。大太鼓の持ち手役が最年長者で、大将と呼び、踊り子を統率します。曲目は道中囃しのオロシの外、一番、二番、三番、と称するものがあるが、総て一番が基本であり、祭礼では氏神の境内で踊るほか、氏子の依頼によって町内でも踊ります。今は、少子化により踊り子の継承が課題となっています。

京都府指定無形民俗文化財

参考文献
京丹後市の民家建築
弥栄町史
弥栄町の文化財